

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年	2	選択
担当教員			
萩原 豪			
B（経営学科）	S（専門科目）	TR（観光）	202（中級科目）

授業のねらい（概要）	さまざまな場所で「まちづくり」という言葉がよく聞かれる。自分たちが住む「まちづくり」は当事者としてどうしたら住みやすい「まち」をつくるか、ということに主眼が置かれているが、この主眼を観光に転じた場合はどうなるだろうか。地域住民にとって住みよい「まち」であると同時に、多くの観光客を呼ぶことができ、且つ、観光客に喜んでもらえるような「まち」とはどのようなものだろうか。本講義では、このような視点を持ちながら、「まちづくり」の中でも観光に主眼を置いた「観光まちづくり」について、「持続可能な社会」というキーワードを掛け合わせながら、基礎的事項を解説していく。
授業計画	第1回 【遠隔】ガイダンス（授業の運営方法説明） 予習（時間）：シラバスの確認および授業テーマについて情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料の見直し。（120） 第2回 【遠隔】「観光まちづくり」とは何か？ 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第3回 【遠隔】「観光まちづくり」の基礎知識（1） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第4回 【遠隔】「観光まちづくり」の基礎知識（2） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第5回 「観光まちづくり」と「持続可能な社会」（総論1） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第6回 「観光まちづくり」と「持続可能な社会」（総論2） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第7回 【課題】「観光まちづくり」と「持続可能な社会」（各論1：防災） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第8回 【課題】「観光まちづくり」と「持続可能な社会」（各論2：アクセシビリティ） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第9回 地域資源の利活用（1） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第10回 【課題】地域資源の利活用（2） 予習（時間）：授業テーマに関する情報収集。（120） 復習（時間）：配付資料およびノートの見直し。（120） 第11回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（120） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（120） 第12回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（120） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（120） 第13回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（120） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（120） 第14回 フィールドワーク 予習（時間）：フィールドワークの準備。（120） 復習（時間）：フィールドワークのまとめ。（120） 予習（時間）：グループワークの準備。（120） 復習（時間）：ワークショップの内容のふりかえり。（120） 第15回 総括（ふりかえり） 予習（時間）：これまでの資料やノートを読み直す。（120） 復習（時間）：最終レポート作成の準備。（120）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP（商学部）の3項目を意識した科目となっている。 - 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 - 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 - 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢 DP（経営学科）の①項目を意識した科目となっている。 - 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力 【身に付くスキル】 表現力・地域力

到達目標	(1) 「観光まちづくり」の基礎知識を理解することができる。 (2) 「観光まちづくり」に関わる多様な視座を理解できる。 (3) 学生自身が地域社会の一員であることを理解し、「まちづくり」に関わるために必要な基礎的知識および手法・企画力を身につけることができる。 (4) 「持続可能な社会」と「観光まちづくり」の関係性について理解できる。 (5) グループワークなどの協働作業を通じて、問題発見・認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成することができる。 (6) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得することができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	リアクションペーパーや課題等については全体的な注意点などを授業内で解説する。
履修上の注意	(1) この授業は一方的な講義形式だけではなく、受講生同士の対話の時間を積極的に持つワークショップ形式の授業を展開していく。授業を通じて気づいたことを、第三者と話すという行動を通じて自らが考え・学ぶというスタイルのため、日常的に新聞・テレビ・インターネットを通じた情報収集をするなど、主体的・能動的な姿勢が求められる。 (2) 進捗状況によって授業内容を組み替える可能性もある。 (3) 授業の一環として調査活動（フィールドワーク）を2回実施する（土曜ないし日曜）。1回は木部町の共同農場における農作業を予定している。日程については現在調整中のため、授業内で指示を出す。交通費などフィールドワークにかかる費用は実費自己負担とする（大型バスを手配していく場合、これまでの費用は2,500～3,500円）。この調査活動は授業時間として充当する。その後、各自が補助的に実施する調査活動については予習・復習の時間内の活動として扱う。 (4) 萩原が担当する他の科目を履修する場合、この「観光まちづくり基礎」を履修しておくことが望ましい。
成績評価の方法・基準	期末試験は行わず、中間レポート（800～1,200字程度）および最終レポート（1,200～2,000字程度）の提出を求める。また毎回の授業後にリアクションペーパー（小テストを含む場合もある）の提出を求める。評価基準は学修意欲：40%、中間レポート：20%、最終レポート：40%、で総合的に判断する。 〔注意〕中間レポートおよび最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。
教科書	
参考書・教材	【参考書】 『持続可能な地域と学校のための学習社会文化論（「ESDでひらく未来」シリーズ）』 著者名：降旗信一編 出版社：学文社 発行年：2017年 価格：2052円 『地方は活性化するか否か（マンガでわかる地方のこれから）』 著者名：こばやしたけし 出版社：学研プラス 発行年：2015年 価格：1080円 【教材】参考文献については授業中に適宜紹介していく。これ以外の参考文献として、書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・ウェブサイトなど、身の回りにある情報源から関連する事柄を幅広く取り上げていく。紹介する事例によっては、ビデオやDVDなども用いる。また必要に応じて、参考資料を配付する。
備考	講義科目 2020年度は7、8、10回を課題研究として学修する。 第7回および第8回では、これまでの授業の内容を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。第7回分としては「観光まちづくりと「持続可能な社会」」について、第7回は「防災」の視点から、第8回は「アクセシビリティ」の視点から、それぞれ各自が身近な題材を基にして考察をしていく。レポートの詳細については第6回の授業で指示を出す。各回、全体で330分の学修を想定している。（合計で660分の学修時間を想定） 第10回では、これまでの授業の内容（特に第9回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第8回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 「成績評価の方法・基準」欄にある「中間レポート」は、ここで示す課題研究のレポートを充当する。実施方法の詳細については、第1回で概要を説明する。
教員との連絡方法	基本的にメールを用いる。授業用アドレスは授業内で周知する。